

母語を活用する観点から見たテイル形の使用 —中国語話者の習得上の困難点の再考察を通して—

Use of the “-teiru” Form from the Viewpoint of Utilizing the Mother Tongue: Re-consideration of Difficulties in its Acquisition by Chinese Speakers

冉 露芸 (RAN LUYUN)

要旨

テイル形は初級に出た文法項目であるものの、中国語話者の習得は早い段階に固定され、中級や上級になっても顕著な変化が見られないとされている。本稿では特にタの誤用が多く出ている過去テンスの「進行中」と現在テンスの「結果残存」を対象として、中国語の発想と中国語話者の意識を考慮に入れテイル形を習得する際の困難点を再考察し、中国語話者の習得を妨げる要因を新たに探り、母語を活用した上で自己チェックできるルールを提案した。その結果、過去テンスの「進行中」にタの誤用が多かったのはテンスの習得ができていないためであり、対応する中国語の表現は「当時(その時)+在」であることが分かった。一方で、現在テンスの「結果残存」に対応する「着」は日本語のテイルの意味内容と異なり、日本語の変化と結果の状態を同時に言語化することを理解させると逆に誤用になる可能性があることが観察された。以上を踏まえ、タとテイルを区別するには変化を目撃したかというルールの方が理解しやすいことを提案した。

キーワード：テイル形、母語の活用、習得上の困難点、学習者の意識、母語の影響

1、はじめに

中国語のアスペクトマーカは豊富であるが、テンスは文法カテゴリーではない言語である。その結果、日本語のアスペクト、テンス形式との対応関係が非常に複雑である。そのため、アスペクトとテンスに関する日中対照研究が多くなされており、特に「了」の負の転移で過去テンスの「進行中」と「結果残存」の習得が困難であると多くの先行研究で述べられている(北村 1994;張 2001;小山 2004;許 2005 など)。つまり、中国語話者は日本語のテイル形を考える際に中国語の言い方を經由し、中国語の動詞に付くマーカによって日本語を考えてしまい、その影響でなかなか正解にたどり着かないとされている。しかし、冉(2017)では、中国語話者は中国語では「着」や「在」ならテイル、「了」ならタというように中国語のアスペクトマーカに従って考えているとは限らず、中国語の発想によって独自のルールを作っていることが観察されている。そうすると、中国語話者のテイル形の習得に妨げる困難点はアスペクトマーカ以外にも存在しており、困難点の解明には学習者の意識も考慮に入れる必要があると考えられる。

そこで、本稿では、中国語のアスペクトマーカの特徴以外に中国語の発想による学習者

の意識も含め、日本語のテイル形と中国語の表し方の対応関係を検討し、中国語話者がテイル形を習得する際の困難点を再考察する。そして、日本人母語話者と同じような文法的直感を持っていない学習者のために、日本語のテイル形に対応する中国語の表し方に関する特徴的な文法的制約を解明し、母語の知識を活用する工夫をし、正解に辿り着く道を提案することを試みたい。

2、先行研究

小山(2004)では中国語、韓国語、他言語の学習者を対象に、アスペクトの習得における個別性の観点から見た結果、他の言語を母語とする学習者と比べると、特に中国語話者がテイル形を習得する際に、母語の影響で習得が困難であると述べられている。また、中国語話者を対象とした研究ではテイル形の多様な用法の中で、「結果残存」は「進行中」に比べ、学習者にとっては習得が困難であり、よく「タ」と誤用されていると報告されている(黒野1995; 小山2004; 許2005など)。中国語話者の習得状況や習得過程を解釈するのに中国語のアスペクトマーカの影響を用いて説明している研究が多い。

中国語のアスペクトマーカには、動作の進行を表す未完結相「在」、完了を表す完結相「了」、動作の持続や状態を表す未完結相「着」などが存在している。北村(1994)は日本語の「動作の進行」のテイルに当たる中国語には「在」と「着」があり、動詞の後に「了」を付ける形は日本語ではタに対応する場合が多いと述べている。また、許(2005)は習得研究を通して「在」「着」が正の転移を与えているのに対し、「了」は負の転移を起こしているため、「進行中」が「結果残存」より習得が容易であると述べられている。つまり、中国語話者は「了=た」、「在=ている(進行中)」、「着=ている(結果残存)」という対応を考えているということである。

また、テンスが加わると「進行中」と「結果残存」の習得難易度が変わる。崔(2009)はSRE理論¹に基づいてテンスとテイル形の関係から中国語話者のテイル形²の習得過程を三段階³に分けたが、稲垣(2015)は、崔(2009)の論は学習者の母語である中国語の転移の観点に反していると指摘し、テンスが使える段階に関する解釈が異なっている。アスペクトの習得段階としては、現在テンスの「進行中」が早い段階に習得され、過去テンスの「進行中」と現在テンスの「結果残存」は次の段階に同時に習得されると論じている。さらに、冉(2017)では、文法テストにフォローアップ・インタビューを入れて調査することで、中国語話者は

¹SRE理論とは、ライヘンバッハ(Reichenbach 1947)(石本訳(1982))が提唱した時間に関する表記法であり、SはSpeech Time(発話時)、RはReference Time(出来事を認識した時点)、EはEvent Time(出来事が起こった時点)を指す。

²崔(2009)は「進行中」と「結果残存」のみを対象としている。

³それは、ル形を多く使用する第一段階、現在テンスにおける「進行中」の習得ができている第二段階、過去/未来テンスにおける「進行中」と現在テンスにおける「結果残存」が習得されている第三段階である。

「現在テンスの結果残存」より「過去テンスの進行中」の習得が早いという可能性が見られることを示した。

中国語話者のテイル形の習得状況は早い段階に固定され、中級や上級になっても顕著な変化が見られない(高梨 2014; 陳 2014)。現在テンスの「進行中」は正の転移で習得が早いと先行研究から分かったため、中国語話者のテイル形の習得が進まないのは次の段階の過去テンスの「進行中」と現在テンスの「結果残存」の習得が遅いためだと考えられる。誤用の原因としては、この2つの用法はどちらも中国語では「了」で言えることから、アスペクトマーカの負の影響を受けていることが挙げられている(許 2005)。過去テンスの「進行中」と現在テンスの「結果残存」は同じ段階に習得されるとされているが、意味的には異なっているため、「了」の影響のためだと言い切れない。そこで、過去テンスの「進行中」と現在テンスの「結果残存」の習得が遅いのはアスペクトマーカ「了」のどのような影響によるものか、あるいは、それ以外の負の転移を受けているか、中国語話者にとってどこが習得上の困難点なのかを明確にする必要があると考えられる。

3、中国語話者の習得における困難点

本節では、中国語話者の習得における困難点について論じている先行研究を踏まえ、中国語話者の習得を妨げる要因を新たに探る。

3.1 過去テンスの「進行中」

中国語は動詞の形態上テンスを区別しない言語⁴である。「進行中」の用法において日中のアスペクトの用法は対応しているが、テンスが変わると中国語話者の習得の難易度が変わる。許(2005)では、現在テンスの「進行中」が過去テンスになると、その習得が難しくなると報告されている。その理由は次の通りである。現在テンスの「進行中」は発話時の動作を指し示し、「在」の使用が特徴であるのに対して、過去テンスの「進行中」は過去の時間軸における特定の一点を示したり、幅のある期間を表したりすることが可能であるため、その中国語の表現は「在」の他に、何もつかない形や完了のアスペクト助詞「了」の使用も可能である。そのため、過去テンスの「進行中」に相当するものは中国語話者にとって時間に対する認識が様々であるため、習得が困難であるとされている。許(2005)はこのことを論じる際に調査文(1)と訳文aを用いた。

(1) 山下：どこに行っていたの？3度も電話したのよ。

田中：ちょっと近くの公園を散歩していたの。

⁴中国語では動詞でテンスが表現できないが、時間詞や時間副詞によって過去・現在・未来を示すことができる。現在の出来事を表す場合は、わざわざ他の時間情報を加える必要はないが、過去や未来テンスを表す場合では時間的な情報が必要であると述べられている(盛他 2006)。

訳文 a: 我 去 附近的 公園 散步 了。

私 行く 近くの 公園 散歩 タ

訳文 b: (刚刚)⁵ 我 在 公園 附近 散步 啊。

さっき 私 テイル 公園 近く 散歩 よ

許 (2005) の調査では、(1)の文は訳文 a のように中国語で「了」になるため、母語の負の影響で学習者の多くはタ形を用いて間違っていると述べられている。しかし、訳文 a は中国語から見ると自然であるが、厳密には原文の訳文とは言えない。なぜかという、中国語の訳文 a を日本語にすると、「近くの公園へ散歩に行った」になり、「近くの公園を散歩していた」という原文と異なるからである。したがって、中国語では「了」と言うため、学習者はその負の影響で過去のタと誤用したとは言えないと考えられる。一方で、原文に「行く」を入れないままで訳すと、訳文 b になり、現在テンスと同じように「在」が言える。中国語では進行中を表す「在」が言えるため正の転移でテイルが使われているはずなのに、許 (2005) の調査では多くの中国語話者がタと誤用した理由は、恐らく「了」と言えるということだけでなく、言語形式上テンスを持たない中国語を母語としている中国語話者のテンスの表し方がまだ習得されていないということであるのではないかと考えられる。冉 (2017)⁶ の調査では、中国語話者はテイル形を考える際に必ずしもアスペクトマーカーストりに考えているわけではないことが分かった。そのため、「タ」と誤用した中国語話者は日本語の文で大体の意味を理解し、母語の言い方を通して考えずに「過去のことだから」と見てタを使うと考えてしまうと推測できる。

また、中国語話者の過去テンスの「進行中」の習得に関して、冉 (2017) ではテンスの捉え方によって正解になる場合と誤用になる場合が観察されている。それらは (2) の a/b のようになる。

(2) その時 私 是 居酒屋 在 酒を飲んでいた のよ。

当时 我 居酒屋 在 酒 喝 正在⁷ 呢

↓

↓

a タ + テイル = テイタ 正解

b ~~タ~~ / テイル 誤用

⁵訳文 b では訳文 a のように完了を表す「了」がないため、「散歩する」という動作は過去に発生したことを表すために、「過去」であることを「刚刚 (さっき)」で提示しないと、過去テンスの意味が伝わらない。

⁶冉 (2017) は許 (2005) と同じように、調査対象者は中級レベルの中国語話者である。

⁷高橋 (1967) によると、中国語では 1 音節語の単独使用は不安定であるため、他の単音副詞と合用で使われることが多い。例えば: 「在」と「正在」のようである。そのため、本稿では「正在」を「在」と同等のものとする。

冉 (2017) のフォローアップ・インタビューから、正解した学習者は a のように「タ (当時)+テイル (正在) =テイタ」と考えているのに対して、誤用となった学習者は「過去の時間を表す言葉「その時」があれば、過去を表すマーカーであるタを使わなくてもよい」と b のように考えたと言える。中国語ではテンスを形式上表さないが、学習者は過去か非過去かの意識はあるため、「タ+テイル=テイタ」と考えて正解しやすいが、中国語の発想通りに日本語でも過去を表す時間副詞だけで十分と考え、誤用になる場合もある。冉 (2017) の調査対象者は中級レベルであり、習熟度が上がればテンスが使えるようになるが、中国語は日本語のようにテンスに敏感な言語ではないため、不注意でタの付け忘れのこともある。

そうしてみると、中国語話者の過去テンスの「進行中」の習得を妨げるものとしては以下の 2 点が挙げられる。一つは、中国語では「進行中」を表す「在」が言えても、母語の言い方を通して考えないまま、発生時が過去ならタを使うことである。もう一つは、母語の「在」を通してアスペクトの「テイル」が使えるが、テンスの「タ」を付けないことである。そのため、日本語の過去テンスの「進行中」と中国語の「在」との対応関係がどうなっているか、どうすれば中国語話者に「在」も「タ」も思い浮かばせられるか、といったことについて考察する必要がある。

3.2 現在テンスの「結果残存」

庵 (2010) は、変化後に主体が存在するようになるか否かという観点から、「結果残存」のテイル形を存在型 (落ちている) と非存在型 (割れている) に分類し、中国語話者が「ある/いる」を使う誤用は前者の場合に生じやすく、タ形を使う誤用は後者の場合に多いと指摘している。つまり、前者の使い方は日本語からみると自然ではないが、間違っているとは言えないのに対して、後者はタとテイルの誤用である。この二種類の誤用は本質的に違うため、本稿では中国語話者の典型的な誤用であるタの誤用タイプの非存在型だけを対象とし、存在型に関しては別稿に譲る。

稲垣 (2013) は、テイル形における日本語と中国語の対照研究を行った結果を次のように述べている。すなわち、中国語は非存在型に関しては変化と結果の状態の両方を表せるマーカー「着」と変化のみを表すマーカー「了」があり、日本語の「結果残存」のテイルは変化と結果の状態を表すという二面性を持っている。「着」も両面性を持っているため、中国語話者にとってテイルと正解しやすいが、「了」で変化のみを表す場合に、変化の結果状態にも着目し、テイルで変化と状態を同時に言語化することが困難であると論じられている。

しかし、「着」は変化と結果の状態双方を表せており、日本語の結果残存の習得に正の転移を与えていると言っても、日本語の結果残存と対応できるのは一部の動詞に限られており、その中の多くは「了」と言い換えることもできる。そして、「着」は「進行中」の意味

として用いられることも多い。

(3) 進行中

下着雨。(雨が降っている。)

唱着歌。(歌を歌っている。)

(4) 結果残存

a. 「着」も「了」も言える

门开着／门开了。(ドアが開いている。)

开着灯／开了灯。(電気がついている。)

b. 「着」は言えるが、「了」は言えない

他坐着／？他坐了。(座っている。)

他站着／？他站了。(立っている。)

c. 「着」は言えないが、「了」が言える

？瓶子碎着／瓶子碎了。(瓶が壊れている。)

？笔断着／笔断了。(ペンが折れている。)

荒川 (1985) は、「着」の本質な機能は「持続」そのものであり、「着」と自然に結び付くのは動きの静かな、ある一定の状態を保つような動詞であると述べている。そのため、「着」は (3) のように動作動詞と結びついて動作の持続を表すことも、(4) の a/b のように物や人間の状態の持続を表すこともできるが、c のように一瞬に変化が起こり、変化の意味が強い動詞と結びつくと不自然になる。そして、「了」は中国語では動作・変化・状態の実現を表すことができるため、(4) a では動作の完了、c では変化の実現として使えるが、b のように動作を行ったがその状態がまだ持続している場合は使えない。

そうすると、「了」と「着」の異なっているところは、「了」が変化や状態が実現したということを取り立てているのに対して、「着」は変化の意味が強い動詞と結びつきにくく、いわゆる「持続」の意味を取り立てている。そのため、日本語の結果残存に対して、中国語では変化時に焦点を当てる場合に「了」が言え、変化した後の状態に焦点を当てる場合に「着」が使える。そうすると、「着」の二面性というのは、変化の意味に焦点に当てておらず、主に「持続」のほうの意味を担っていると考えられる。つまり、中国語の「着」は日本語の結果残存のテイルと同じように二面性を持っていると言っても、それぞれ担っている意味機能が異なっている。さらに言うと、中国語話者が「着」が言える文で正解になったのは、変化と結果の状態をともに考えて使っているからではなく、結果の状態の持続が強く感じられているためであると考えられる。

また、冉 (2017) の調査では、変化と状態の両方を注目したものの、逆に誤用を引き起こしたケースも観察されている。

(5) 中国語話者の誤用例：

お母さん：お皿を取ってきてくれる。

あなた：はい。あれ、このお皿、割れていた。

訳文：啊，这个盘子，碎了。

フォローアップ・インタビューでは、テイタと回答した人は「割れた」という動作はすでに前の時点に発生したが、そのお皿の様子が今目の前に静的に持続しているため、現在の状態として理解できると答え、さらに「割れた」という動作は過去に発生したので、一応過去の何かで表さないと」と考え、回答のテイルにタを入れたと冉 (2017) では述べられている。つまり、ここで学習者は (2) a と似たように「今の状態(ている) + 過去に発生した変化(た) = テイタ」というストラテジーを使った。したがって、学習者にとって難しいのは変化と結果の状態を同時に言語化することではなく、変化時は過去の時点なのに、どうしてそれに現在形のテイルを使うのかということを理解してもらい、学習者の意識を変化後の状態に向わせることである。

上記のように、中国語話者は変化時の過去に気づいたらタやテイタの誤用が出てしまうが、持続している状態ということ意識できればテイルに正解しやすいと言える。そのため、変化後の状態が現在持続していることを意識させる工夫が必要である。

4、母語の知識を活用する工夫のために

本節では中国語話者の困難点に基づき、同じ場面における日本語と中国語の使い方を観察することで、母語の知識を活用する試案を検討する。

4.1 過去テンスの「進行中」

庵 (2014) では、過去テンスの「進行中」の場合、「観察時」は文中の特定の「1 時点」でなければならないと論じられている。一方、木村 (1982) によると、「在」の基本義は「動作が今同時にある (その時同時にあった)」というものであり、「～しているところ」という意味に相当する。すなわち、「在」は時間軸の中の一点だけを提示することで、今の時点と同時に動作が進行していることを描写できると述べられている。つまり、中国語の「在」も日本語のテイタと同じように、過去のある特定の一時点に進行していることを指すのが普通である。

(6) A：昨日の午後3時ごろは部屋にいなかったよね。

B：そうですね。その時は映画を見ていたの。

訳文 a: 对啊。 当时 我 在 看 电影。

そうですね。 その時 私 テイル 見る 映画

訳文 b: ?对啊。 当时 我 看 电影 了。

そうですね。 その時 私 見る 映画 タ

(6) では昨日の3時という特定の一時点があるため、日本語ではテイタを使うのに対して、中国語では訳文 a のように過去のその時点を指す「当时(その時)」と「在(テイル)」で表すのが自然であり、bのように「当时(その時)+了」の言い方は不自然になる。「了」は完了を表すアスペクトマーカであり、「その時」は映画を見ているところを指すもので、その動作がまだ未完了であるため、「その時」があれば「了」が使いにくいと考えられる。

しかし、前節に取り上げた例文(1)の訳文 a に「その時」を入れても自然に使える。ここで、「了」が自然に言えるのは「行く」という移動動詞があるからである。過去のある時点で「散歩する」という動作がまだ完了していないが、「家から出かけて、散歩へ行く⁸」という移動の動作はもう完了したため、「了」が自然に使える。原文を直訳すると(つまり、「行く」がない場合)、「当时我在公园附近散步了」となり、それも中国語では不自然である。特にこの文脈では使えないと思われる。(7)のように、「Vに行く」があれば「その時」があっても「了」も「当時+在」も言えるが、「了」だけでは、非文になる場合が多い。つまり、「当时(その時)」と「了」との相性が悪いということが分かった。さらに言うと、日本語の「進行中」のテイタの文を直訳する場合、「当时(その時)」を入れれば中国語話者は自動的に「了」の文が不自然だと判断できる。

(1) ' 山下: どこに行っていたの? 3度も電話したのよ。

田中: ちょっと近くの公園を散歩していたの。

訳文 a: (当时) 我 去 附近的 公园 散步 了。

その時 私 行く。 近くの 公園 散歩 タ。

日本語訳 a: (その時) 私は公園へ散歩に行った。

訳文 b: (当时) 我 在 公园 附近 散步 啊。

その時 私 テイル 公園 近く 散歩 よ

日本語訳 b: (その時) 私は公園の近くで散歩していた。

(7) a. 我当时在做扫除/我去做扫除了/?我当时扫除了 (その時私は掃除していた)

b. 我当时在吃饭/我去吃饭了/?我当时吃饭了 (その時私は食べていた)

c. 我当时在唱歌/我去唱歌了/?我当时唱歌了 (その時私は歌っていた)

⁸日本語の「行く」のテイル形は「結果残存」の意味として常にそうなるが、中国語では「進行中」として捉えることが多い。

こうしてみると、中国語の「在」も日本語の「テイタ」も過去の一時点に進行し続けることを描写するため、直訳の場合、日本語の過去テンスの「進行中」と意味的に対応する中国語は、「当時(その時)+在」である⁹。

そうすると、母語の知識を使い、まず直訳して「在」が言えるかどうかを考えてもらい、そしてその動作は過去に終わっているかを確認してもらえば、文を産出する際に過去の進行中であることに気づくことができると考えられる。

4.2 現在テンスの「結果残存」

中国語話者は「結果残存」の意味を表す文ではよくテイルの代わりにタを使ってしまうことが多いのは、どちらも中国語では「了」と訳して表しているからである。日本語では変化動詞の場合にタとテイルは以下のように使い分けている。

(8) 皿が割れている。(盘子碎了。)

皿が割れた。(盘子碎了。)

庵(2001)では、(8)の2文について、前者は台所に入って皿が割れた状態にあるのを発見した場合であり、後者が使われるのは変化を実際に目撃した場合に限られると述べられている。つまり、変化を目撃した場合にタが使われ、変化を目撃せずに直接変化後の状態を見た場合にテイルが使われる。同じようなことは「着」と「了」にも観察できる。

(9) 车停着。(車が止まっている。)

车停了。(車が止まった。)

(9)に「着」が使えるのは、窓から外を見たら車がすでに前の時点から止まっていることを発見した場合であるが、「了」が使えるのは、道でタクシーを呼ぼうとしている時に、車が目の前に止まり、「那辆车停了 (その車が止まった)」と言う場面である。つまり、「着」は変化を目撃しておらずただの状態の持続の場合に使うのに対して、「了」は変化を目撃した場合に変化の実現を表す時に使われる。

前節で述べたように、「了」は変化時が過去である場合には使えるため、「車が止まって

⁹「着」も「進行中」の意味を表すことができるが、持続性動詞では「在」が自由に使えるが「着」の方は制約がある(荒川1985)ため、「(過去の時間詞)+在」は「(過去の時間詞)+着」より使用範囲が広く、「在」は「着」の言える文もカバーできると考えられる。

いる」という文は「车停了」でも言える。しかし、変化時を目撃していない文脈であれば中国語では「着」の方が自然である。

すなわち、この「着」と「了」が使い分けられているように、目撃しているかどうかによって使われる表現が異なることもある、という感覚は存在する。ただし、「着」は一部の変化動詞としか結びつけないため、「了」と使うことが多い。そのように、日本語と中国語の使い方を表にすると、表1のようになる。

表1 場面による対応関係

	日	中	対応するか
変化を目撃した	た	了	○
変化を目撃しなかった	ている	着	○
		了	×

表1を見ると、変化を目撃した場合、日本語ではタを使い、中国語では「了」と使う。中国語話者は「了=た」という対応を認識して考えているため、変化を目撃した場合なら、そのままタを使うと正解になるはずである。そうして見ると、「了」は負の転移を引き起こすばかりではないと言える。変化を目撃しなかった場合は、「着=テイル」の考え方で自然に正解になるが、問題は「了」と言う場合である。逆に考えると、「了」が言えるがその場合の変化を目撃しなかったらテイルを使うというルールを加えれば、テイルを使おうとする意識が出てくる可能性が高い。

日本語の結果残存のテイルに対応する中国語の言い方が「了」の場合では、中国語話者はどうしても過去という連想に繋がり、現在形のテイルを思い浮かぶことが非常に困難である。そうすると、アスペクトマーカ―だけでは中国語話者の理解に役立たないと見られた。しかし、中国語の「着」と「了」の使い分けの発想は日本語のタとテイルの使い分けのルールと似ており、それを利用することが考えられる。つまり、本節で論じたように、変化を目撃していないためただ今眼前の状態だけを表せばいいと一言説明し、目撃しなかったらテイルを使うと場面ごとに考えてもらうほうが、中国語話者にとっては理解しやすい。そうすることで、中国語話者はそのルールに従って考えることができれば、産出した現在テンスの結果残存に対してチェックすることもできると考えられる。

5、終わりに

本稿では中国語話者が過去テンスの「進行中」と現在テンスの「結果残存」を習得する際の困難点を再考察することで、中国語話者の習得を妨げる要因を新たに探った。その結果、過去テンスの「進行中」においては、先行研究が挙げられているように「了」の負の影響でタと間違っているのではなく、テンスの習得ができていない影響を受けているためだと分

かった。そして、厳密に言うと過去テンスの「進行中」に対応する中国語の表現は「了」ではなく、「過去の時間詞+在」であることも考察された。一方、現在テンスの「結果残存」においては、先行研究で述べられているように、変化と結果の状態を同時に言語化することが最大の困難点ではなく、中国語の発想と中国語話者の意識を含めてみると、むしろ変化の意味を弱め、現在の状態の意味を取り立てた方が学習者の理解に近いことが分かった。また、日本語のテイル形に対応する中国語の表現が使われる際の特徴を検討することで、母語の知識を運用し、中国語話者の自己チェックできるルールを提案した。本稿の提案は実践を経たものではないため、それは今後の課題として検証していきたいと考えている。

参考文献

- 荒川清秀 (1985) 『一步すすんだ中国語文法』大修館書店
- 庵功雄 (2001) 「テイル形・テイタ形の意味の捉え方に関する一試案」『一橋大学留学生センター紀要』4, pp. 75-94, 一橋大学留学生センター
- 庵功雄 (2010) 「第1回 アスペクトをめぐって」『中国語話者のための日本語教育研究』創刊号, pp.41-48. 中国語話者のための日本語教育研究会 (編)
- 庵功雄 (2014) 「テイル形、テイタ形の意味・用法の形態・統語論的記述の試み」『日本語文法学会第15回大会予稿集』
- 稲垣俊史 (2013) 「テイルの二面性と中国語話者によるテイルの習得への示唆」『中国語話者のための日本語教育研究』第4号, pp. 29-41. 中国語話者のための日本語教育研究会(編)
- 稲垣俊史 (2015) 「中国語話者による日本語のテンス・アスペクトの習得—崔(2009)の再解釈—」『中国語話者のための日本語教育研究』第6号, pp. 50-60. 中国語話者のための日本語教育研究会(編)
- 北村よう (1994) 「日本語のテンスとアスペクト習得—中国語話者の場合」『東海大学留学生センター30周年記念論集』pp. 221-235, 東海大学
- 木村英樹 (1982) 「テンス・アスペクト—中国語」『講座日本語学 11 外国語との対照 II』明治書院, pp. 19-39, 明治書院
- 許夏珮 (2005) 『日本語学習者によるアスペクトの習得』くろしお出版
- 黒野敦子 (1995) 「初級日本語学習者におけるテイルの習得について」『日本語教育』87号, pp. 153-164, 日本語教育学会
- 小山悟 (2004) 「日本語のテンス・アスペクトの習得における普遍性と個別性：母語の役割と影響を中心に」小山悟・大友可能子・野原美和子 (編) 『言語と教育：日本語を対象として』pp. 415-436, くろしお出版
- 崔亜珍 (2009) 「SRE理論から見た日本語テンス・アスペクトの習得研究—中国人日本語学習者を対象に—」『日本語教育』142号, pp. 80-90, 日本語教育学会
- 盛文淵・吉本啓・佐藤滋 (2006) 「中国語におけるテンスの解釈—アスペクトとテンスの相関性から—」『言語処理学会年次大会発表論文集』12, pp. 608-611, 言語処理学会

- 冉露芸(2017)「テイル形の使用における中国話話者の意識-フォローアップ・インタビューから」
『中国話話者のための日本語教育研究』第8号, pp. 46-60. 中国話話者のための日本語教育研究会(編)
- 高梨信乃(2014)「上級学習者のテイル形使用に見られる問題点—文法指導の隙間」『日本語／日本語教育研究』第5号, pp. 29-46. ココ出版
- 高橋君平(1967)『中国語文法』大安
- 張麟声(2001)『日本語教育のための誤用分析-中国話話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク
- 陳建璋(2014)「日本語のアスペクト形式「テイル」の習得に関する横断研究—動詞の語彙的アスペクトによる影響について—」『言葉と文化』15号, pp. 31-47. 名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻
- 李 臨定(1993)『中国語文法概論』光生館
- Reichenbach, H. (1947) *Elements of Symbolic Logic*. NY: The Macmillan Company. (石本新(訳)(1982)『記号論理学の原理』大修館書店)

(ぜん ろうん 一橋大学言語社会研究科博士課程)